

モモ新品種 ‘ふくえくぼ’ の特性

佐久間 宣 昭・松 野 英 行・山 家 弘 士

(福島県果樹試験場)

Characteristics of a New Peach Cultivar “Fukuekubo”
Nobuaki SAKUMA, Hideyuki MATSUNO and Hiroshi YAMAGA
(Fukushima Fruit Tree Experiment Station)

1 はじめに

福島県におけるモモの品種構成は、中生種から晩生種に偏った構成となっており、収穫労力の確保や共同選果場の運営等の点から改善が求められている。そこで、早生種、中生種、晩生種のバランスのとれた品種構成を推進しているが、本県における早生種は梅雨期に成熟するため果実品質が不安定となりやすく、品質の安定した品種の育成が望まれている。福島県果樹試験場では1984年からモモの育種を開始し、交雑育種を継続する一方で、放射線育種と組織培養技術の組合せにより ‘ふくえくぼ’ を育成したので、本品種の育成経過と主要特性について報告する。

2 育成経過

1987年に ‘あかつき’ の早生系、晩生系などの変異系統を獲得する目的で、茎頂培養技術を利用して増殖中の ‘あかつき’ の苗条塊に農水省農業生物資源研究所放射線育種場において γ 線照射を行った。照射は線量率250R/hで3, 6, 9, 12KRの4処理とした。照射後新たに増殖、伸長した苗条を3回継代培養した後、発根、鉢上げし、249個体を1988年6月に圃場に定植した。1990年に初結実し、調査を開始したところ、3KRの照射を行った苗条から増殖した15個体のうち1個体が早生に変異していることを確認した。その後、高接ぎによる検定でも早熟性が安定していることから、1994年3月に「福島モモ3号」として、品種登録出願を行い、1995年に ‘ふくえくぼ’ と命名、1996年6月に品種登録された。

3 特性の概要

育成地(福島県福島市飯坂町)における ‘ふくえくぼ’ の特性は以下のとおりである。

(1) 樹姿はやや直立、樹勢、枝梢の太さ及び節間長は中程度である。花は普通咲き、淡桃色単弁で、花粉を有しており結実は良好である。

(2) 開花期、発芽期及び落葉期は ‘あかつき’ と同時期で、生理落果の発生は少なく、通常の管理で目立った病害虫の発生はない。

(3) 満開後91~100日で成熟する早生種で、収穫時期は7月中~下旬となる。‘八幡白鳳’ よりやや早く、‘日川白鳳’ とほぼ同時期に収穫される(表1)。

(4) 果形は偏円形で、梗あいの深さは中、縫合線は赤道部で浅く、果頂部では中程度の深さである。果実重は230g程度となり、果皮の地色は乳白で、着色は果実全面に濃く良好である。毛じの密度は密で、果皮表面に裂果の発生がみられることがあるが、無袋栽培が可能である。

(5) 果肉色は乳白、果肉内の着色及び核周囲の着色は少である。肉質は溶質、甘味は中、酸味は微で、果汁が多く、食味は比較的良好で、日持ちは中程度である(表2)。果肉の繊維は少なく、渋味及び苦味はなく、香気は中程度である。

(6) 核と果肉の粘離は粘核、核の形は短楕円、大きさは中で、核割れの発生は少ない。

表1 育成地における収穫期及び果実品質調査結果

品 種 名	調査年	収穫始 (月・日)	収穫終 (月・日)	平均果重 (g)	RM示度 (%)	果汁pH
ふくえくぼ	1991	7.22	7.24	166	8.3	4.8
	1992	7.22	7.27	192	10.5	4.8
	1993	7.26	7.28	194	8.7	4.5
	1994	7.18	7.27	213	12.5	4.9
	1995	7.19	7.24	239	10.2	4.8
日川白鳳	1991	7.15	7.22	214	9.2	4.3
	1992	7.22	7.27	227	10.4	4.2
	1993	7.23	7.30	252	9.6	4.2
	1994	7.18	7.22	202	9.8	4.3
	1995	7.19	7.24	217	10.1	4.2
八幡白鳳	1991	7.22	7.29	193	9.6	4.6
	1992	7.29	8. 5	233	10.8	4.6
	1993	7.30	8. 6	237	10.0	4.8
	1994	7.22	7.29	203	9.7	4.5
	1995	7.26	7.31	214	9.3	4.7
あかつき	1991	7.31	8. 8	225	11.2	4.9
	1992	8. 9	8.14	232	12.9	4.7
	1993	8. 9	8.13	239	9.8	4.3
	1994	8. 1	8.10	262	15.1	4.5
	1995	8. 7	8.14	289	12.6	4.5

表2 日持ち調査結果(1994)

収穫日	果肉硬度の変化 (kg/cm ²)			
	収穫直後	24時間後	48時間後	72時間後
7.20	2.52	1.69	1.27	—
7.21	2.08	1.81	1.40	1.28

注. 収穫後20℃に放置し、ユニバーサル硬度計(円錐型、有皮)で測定。

4 普 及 性

モモの栽培では収穫期間が短く、労力が一時的に集中するため、経営上品種の組み合わせが重要である。また、モモは果実品質が収穫期の気象に大きく左右されるため、品種構成は品質の安定する中生種、晩生種を主力としながら、早生種を補助品種として取り入れた経営が望ましい。‘ふくえくぼ’は早生種としては無袋栽培でも着色が優れており、同時期に収穫される他品種に比較して商品性が高いことから、‘あかつき’以前に収穫される早生品種として普

及が期待される。

5 栽培上の留意点

本品種は収穫期が梅雨末期に重なるため、年次により糖度が低いことがある。また、肉質が軟らかめで日持ちが中程度であることから、収穫適期の判定を適正に行うよう心かける必要がある。さらに、陽光面に裂果を生ずることがあるため、摘果にあたっては葉芽のある果実を残し、裂果防止を図る。